

## 推薦規約についての参考資料

2013/2/20

文責：記録部長 武居礼夏

### 1. はじめに

現在の規約ではセレの推薦は、規約に従って総会の決をもって決めている。今回宮川早穂さん(立教)がAエリート推薦に落ちたことを受け、様々な意見が聞かれた。意見を大きく分けると「この規約の基準は本当にこれでいいのか」と「決定する主体は総会でいいのか」の2つになる。そこでこの規約ができた成り行きを追い、今の関東学連にふさわしい規約とは何かを議論する。

### 2. おおまかな歴史

3年前まで技術諮問委員会(関東学連のOB・OGからなる組織)がセレの運営、セレの推薦、新人戦のコントローラー派遣、山リハ(当時関東リレー)の運営協力をしてきたが、色々と負担が大きくなり委員会を維持できなくなったので解体した。それに伴い、推薦を自分たちでやる必要が出てきたため、作成されたのが現在の推薦規約である。

2008年の「東大オフィシャルによる異議申し立てに対する回答」(※末尾に転載)を見ると、当時関東学連はセレを本番同様に大事なものとしてとらえていたことがわかる。

### 3. 他学連の推薦制度

参考として、他学連の推薦やセレクションの方法、技術諮問委員についてまとめたものを以下に掲載する。

#### 北東学連

ロングセレは東大大会と独自セレの2本で、東大大会:独自セレ=4:6で決める。

ミドルセレは完全にセレ1本。推薦制度は無い。

#### 関西学連

セレ後に推薦で男女1人ずつ決める。推薦枠は原則推薦で決める。セレ後に推薦の立候補を募って、その中で相対的に速い人を1人決める感じ。決めるのは技術諮問委員。技術諮問委員はセレの運営と推薦だけが仕事なのでそこまで負担でもなく、今のところ維持できている。各大学からOB・OG1年目の人を1人出してもらい構成。セレ運営は他のOB・OGも手伝う。また、ロングは免除者を出すこともある。

#### 東海学連

免除者を出すこともある。それは技術諮問委員会の提案で幹事会が決める。推薦

については毎年セレ前に話し合っで決める。今年度は以下の通り。【条件】1)ミドルセレに出場、2)私用または病気、怪我によりミドルセレを欠場する場合は、欠場理由や病気、怪我の程度などを含め諮問委員の判断に委ねる。

今年度は以下の通り。【選考基準】1)来年度の学連枠獲得がより期待できる選手、2)立候補者が提出する実績をもとに、2012年度の成績を特に重視して、諮問委員が判断、3)ミドルセレ以降の成績の考慮は、諮問委員の方々の判断による、4)立候補者がいない場合には、次点の選手が枠に収まる。【選考方法】東海学連諮問委員の方々に選考していただく。

技術諮問委員は各大学からOB・OG1年目の人を一人ずつ選出。1999年から2004年まで、技術諮問委員はなかったが、無いと不便なので復活した。

#### 北信越学連

加盟校が2つだけのため、セレによってその2校に枠を配分し、大学内で誰が出るのかは各大学に任せる。例えば、セレで上位何人の中に○大学の人がX人、×大学の人がY人いたら、○大学と×大学の配分がX:Yになる。推薦制度や技術諮問委員は無い。

#### 4. 推薦制度の選択肢と論点

まず大きな選択肢として、推薦制度を廃止するか否かがある。推薦制度を廃止する場合、①1本のセレクションレースで判断する、②複数のセレクションレースで判断する、の2つが選択肢として挙げられる。学連総会に先立ち行われた幹事会では、後者は日程や運営者の負担等を考えると現実には厳しいとの意見が出された。

推薦制度を継続する場合、論点は次の2つだと考えられる。1つ目は、誰が決定するか。2つ目は、基準をどうするか。

決定主体に関しては、次の3つが挙げられる。

- ① 自分たちで決める(学連総会による決定)
- ② セレ実行委員会に依頼
- ③ 技術諮問委員会を復活させて、そこが決める

※参考として

幹事会において、④上記以外の組織(ex.日本学連)に依頼する、⑤学連総会において決めるが、監視役(ex.セレ実行委員会)をおくという案も出された。前者については、「関東学連の話なのに日本学連に決めてもらうのはおかしいのではないか」、「日本学連も忙しいし現実的にも厳しいのではないか」との意見が出た。後者は、監視役は総会の決定後に異議を唱えることはできるが、最終決定はやはり総会とする、いわば衆議院と参議院のような関係をイメージしている。これには「監視機関を置くことは良いことではないか」という意見が出た一方、「形骸化するのではないか」、「手続きが煩雑になって決定に時間がかかるのではないか」、「そうだったら実

行委員会の提案を総会で承認すればいいのではないか」という意見も出された。

基準に関しては、まず方向性を決める必要があり、次のどちらかに決める必要がある。

- ① 関東学連の来年度の枠を確保することを最優先に考える
  - ② 「実力があればセレに出なくても通る」というモラルハザードを防ぐため、実力以外にも厳しい条件を設ける
- そして基準は「未出走 or 不通過の理由」と「実力の基準」の2つに分かれるが、「実力の基準」に関してはあえて変えるほどの理由はないかと考えられる。
- 「未出走 or 不通過の理由」に関して、選択肢として、
- ① 現在のまま（変更なし）
  - ② 基本は現在のままで、内容を少し変える
  - ③ 「自分の過失でない場合は可」などのように、抽象的にしか決めない（詳しい内容についてはその都度問う）
  - ④ 不問
- などがあると考えられる。

## 5. メリット・デメリット

### I. 「推薦制度」を廃止した場合

- ① メリット
  - ・楽。判断基準が分かりやすい。
  - ・セレクションレースのみで判断するので公平性がある。
- ② デメリット
  - ・不慮の事故などが起きた場合の救済制度がない。
  - ・有力選手がセレクションに落ちた場合、関東学連として継続して来年度も枠をとることができない。

### II. 関東学連総会が判断主体になる場合

- ① メリット
  - ・透明性がある。自分たちで決めるのでどのような議論があったか分かる。
- ② デメリット
  - ・各大学の思惑が排除できない。クラブ毎に票が固まりやすい。
  - ・1票の格差。  
←推薦以外の全ての議決も1校1票の原則。日本学連も同じ。

### III. 技術諮問委員会が判断主体になる場合

- ① メリット
  - ・公正。私情が入りにくい。
  - ・メンバーの偏りをなくすることができる。(規約を作れば)
- ② デメリット
  - ・規約の変更。(←さして負担でもないが。)
  - ・継続できるか。メンバーの確保の問題。

### IV. セレ実行委員会が判断主体になる場合

- ① メリット
  - ・公正。私情が入りにくい。
- ② デメリット
  - ・実行委員会への負担が増える。
  - ・メンバーの偏りがうまれる。

東京大学オフィシャル 加藤弘之殿 茂木堯彦殿  
関東学連加盟校・準加盟校各位

2008 年12 月21 日  
関東学連技術諮問委員長 田久保豊

**2008 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会  
ミドル・ディスタンス競技部門（以下、インカレミドル）関東地区代表選手  
技術諮問委員会推薦結果に対する異議申し立てへの回答**

12月16日に行われた本委員会による推薦会議の結果に対し、東京大学オフィシャルによる異議申し立てがなされましたので回答いたします。

**【異議申し立てへの回答】**

1. 選考基準にない理由によって、判断されていることに対する回答

当日の欠席を理由にした判断を基準からの逸脱と指摘しているが、本委員会による推薦は次年度以降の地区学連枠の確保を旨としているため、実績以前の問題として、学生としての自己管理、およびスポーツマンシップを常に発揮できるかの判断が優先されることは妥当である。つまり、『立候補者はセレクション当日出場できる状態』にあったにも関わらず『セレクションを欠場した』という事実を無視することはできない。よって、本委員会はこのような者を推薦するわけにはいかないという判断を下した。

2. 学連枠をとる可能性が高いという判断についてに対する回答

1. に対する回答を以て2. に対する回答に代える。

**【関東学連加盟校・準加盟校の皆様へ】**

セレクションはインカレ本番当日と等しく重要なものであり、本委員会による推薦が、『ある程度の実績を残している者ならばセレクションを休んだ方が得である』という制度となることを防ぐために、実績による判断に先立って当日の欠席理由の妥当性を吟味した。しかし、これは選考基準として示されるべき性質のものではなく、常識として当然理解されるべきものである。

以降に、東京大学オフィシャルによる異議申し立ての内容を転載します。

関東学連技術諮問委員会 委員長 田久保豊殿

2008 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会

ミドル・ディスタンス競技部門（以下、インカレミドル）関東地区代表選手  
技術諮問委員会推薦結果に対する異議申し立て

2008年12月19日

東京大学オフィシャル 加藤弘之 茂木堯彦

12月16日に行われた、推薦会議の結果に対して、異議を申し立てます。

下記の理由により、推薦結果が不当であると主張し、再審議を依頼いたします。

1. 選考基準にない理由によって、判断されていること

選考基準が「インカレミドル本戦において学連枠の確保が十分期待できる者」である以上、本人の実力から判断を下すべきであるにもかかわらず、「セレクションを欠場する理由としては妥当では無い」と、当日の欠席を理由に結果を決定しているが、これは基準を逸脱している。

委員会は事前に公表された基準に基づき、当人の実力に関する材料（実績）から客観的に判断を下すべきであり、相手の状況を推し測り決断を下すのは、主観的で不当である。

当日の欠席を判断材料とするならば、選考基準を

- ①インカレミドル本戦において学連枠の確保が十分期待できる者
  - ②人にとって如何ともし難い事態により、セレクションを欠場した者
- などとすべきである。

2. 学連枠をとる可能性が高いという判断について

立候補者はインカレロングディスタンス エリートクラスで3位入賞を果たしており、実力的に学連枠を確保するのにふさわしいというのが客観的な判断であると考えます。「立候補者は、インカレ当日に来ないのではないかと疑われる。来なければ、学連枠を取れない。」という憶測もできるが、学生最大の問題である卒論の提出・発表を終えている今の状態では、インカレに出場できる可能性が非常に高いと考えるのが妥当であり、実力と加味しても、学連枠をとる可能性は、充分であると考えます。

以上